

健康増進活動拠点病院として、  
病院にかかわるすべての人々の  
健康づくりを支援していきます。



城北病院は 2015 年 1 月にヘルスプロモーション  
グホスピタル (Health Promoting Hospitals and Health  
Services 以下、HPH) の世界的ネットワークに登録しま  
した。HPH ネットワークには、現在全世界でのおよそ  
40ヶ国、900 以上の医療機関が参加しています。

HPH は、世界保健機構 (WHO) が提唱したもので、  
地域住民が健康に働き暮らすことが可能な支援的環境づ  
くりめざすことを病院の使命と自認する病院です。これ  
までの病院の伝統的な役割は受診された患者様の「治  
療」でした。しかし、それに加えて、現在は健康な地域  
づくりにも貢献することが求められています。HPH への  
登録は全国で 19 番目、石川県では初の登録になります。

患者様に対しては、健康教育と支援的環境の有無を  
評価し、具体的な支援策を考えます。経済的に困難な  
患者様には、無料低額診療事業など社会資源の活用を  
図り、治療の継続や健康づくりに取り組むことを援助し  
ます。地域に対しては、共同組織の皆様とともに健康に

関連する地域の問題を評価し、具体的な改善策を考えま  
す。また、健康チャレンジなど、健康改善のための活動  
を支援していくのも HPH の実践です。

HPH の特徴として、ヘルスプロモーション活動は患者  
様や地域住民だけでなく、病院で働く職員も対象として  
位置付けています。職員の健康無くして、患者様や地域  
住民の健康は守れないということです。仕事のストレス  
などで生じるメンタルヘルス不全対策や腰痛予防を実践  
して、健康で働きやすい職場をつくっていきます。

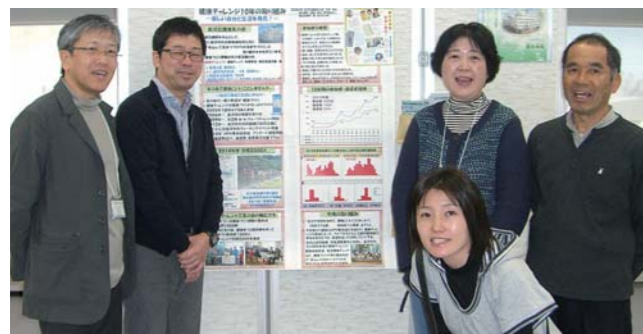


青空健康チェックを実施しています

INFORMATION

緩和ケア外来がスタートします

2月5日より、緩和ケア外来が、城北診療所で始  
まりました。  
毎週 木曜日午前 予約制になります。  
ご予約等詳細は、城北診療所外科外来までお問い  
合わせください。



第2回 HPH セミナー in Japan ポスター発表 2015年1月17日、18日

私たちが  
めざすもの 医療福祉宣言  
城北病院 城北診療所 2014

- 1 患者様の立場に立つことを大切にします。
- 2 患者様への情報提供と合意づくりに努めます。
- 3 安全安心の医療・福祉の提供に努めます。
- 4 安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 5 人権を守り無差別平等の医療・福祉を目指します

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3  
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231  
http://jouhoku-hosp.com E-mail renkeisitu@jouhoku.jp



城北病院医療福祉連携相談室だより  
JO-HOKU No. 37

2015.2.15 winter



城北病院 院長 大野健次

今年一年も、城北病院・診療所を  
よろしく願っています。

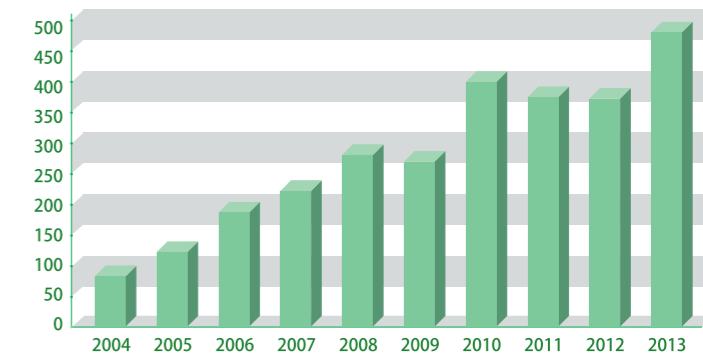
城北病院は、昨年 10 月 1 日から地域包括ケア病棟を開設いたしました。

当院はこれで一般急性期 (DPC) 回復期リハビリテーション病棟 医療療養病棟 介護療養病棟  
地域包括ケア病棟をもつ 314 床の複合型の病院となりました。

政府がすすめる地域包括ケアシステムについて全面的に賛成なわけではありませんが、10 年以上前から  
当院のコンセプトとして掲げている「安心して住み続けられるまち作り」があり、この理念は地域包括ケ  
アシステムの考え方には合致します。

ここ数年で、介護老人福祉施設 (特養)、介護老人保健施設 (老健)、認知症対応共同生活介護 (グループホーム)  
など高齢者施設からの入院が増加してきています (グラフ)。地域の医療を担う城北病院の役割もこ  
の数字からみていただけたらと思います。

今後は 2025 年問題に代表されるように高齢  
者が増加し、認知症の治療や介護、リハビリテー  
ションなどの需要がさらに増大することが見込  
まれています。高齢者のみならず、小児医療を  
含め幅広く地域を構成していく病院として、こ  
の地に根を張り頑張っていきたいと思ってお  
りますのでよろしくお願いいたします。



施設からの入院 (2004年—2013年)

また城北病院の大きな特徴として、友の会の存在があります。城北病院、城北診療所、城北クリニック、  
城北歯科など、城北グループを支えてくださっている「北健康友の会」(前身は城北病院友の会)です。現在、  
会員数は 18000 人を超えて、活発に活動を行っています。昨年の 10 月 19 日には友の会と城北病院の共  
催で開催した「第 15 回 健康まつり」も 1500 人もの多くの方に来場いただけました。

2015 年の春には、北健康友の会は奥能登 (輪島診療所など)、はくい (羽咋診療所など)、金沢西 (上  
荒屋クリニックなど)、金沢南 (健生クリニックなど)、南加賀 (寺井病院など)、小松南部 (小松みなみ  
診療所など) と合併をして、5 万 4 千人をこえる石川県健康友の会連合会として生まれ変わる予定です。  
今後とも友の会ともども城北病院をよろしくお願いいたします。

## 在宅医療を支える 城北病院への期待

城北クリニック  
大川義弘先生インタビュー



### 【城北クリニックのあゆみ】

**インタビュー** 城北クリニック開院からこれまでの経過について教えてください。

**大川医師** 1997年10月1日に「在宅医療をフルに支援する」というコンセプトでオープンしました。2007年で10周年を迎え、今年で17年目になります。職員数はオープン時に15人でしたが、現在は72人に増えました。開院時は外来、訪問診察、訪問看護、物理療法、移送入浴サービス、老人デイケアのサービスを主に行っていました。クリニックをつくるにあたって近隣の高齢者を対象にアンケート調査をしたところ、「お風呂に入りたけれど一人で入れないのでお風呂に入りたい」という要望が1番多くありました。その要望にこたえるために、再診

のみで入浴ができるサービスを始めました。老人デイケアが介護保険で通所リハビリとなり、利用者もどんどん増え、クリニックを増築し、通所介護を2002年に開設しました。訪問介護は1999年、訪問リハビリは2000年から開始しました。しかし、独居、老老介護、家族介護力低下により家に住み続けることができず、訪問系サービスは訪問診察と訪問リハビリを除き減少しています。在宅介護力をどうあげるのが問われます。私たちのミッションは、利用者が住む所で安全に安心して生活できるように、地域のネットワークの一員として在宅ケアを充実させることです。

### 【在宅医療の現場から～】

**インタビュー** 城北病院で週に1回の在宅回診を行っています。がどのような内容ですか。また、大川先生、スタッフの皆さんが在宅医療・連携で大切にしていることはどのようなことでしょうか？

**大川医師** 城北病院での在宅回診は2007年4月より始まりました。病院の医療と在宅はそれぞれ役割があり、利用者（患者）さんにとって言えば病院は“アウェイ”で在宅は“ホーム”といえると思います。病院はやむを得ず入院するところであると思います。私たちも病院には感謝していますが利用者（患者）さんには退院してくると「おつとめ御苦労さま」と言っています。利用者（患者）さんは病院と家で表情が全然違います。病院と在宅の違いは主人公である患者の生活を中心に考え大切にすることです。その人を中心に考え、嫌がることはあまりしません。なるべく入院しなくてよいように急性疾患を合併しても在宅で診るようにしていきます。なるべく入院は避けるようにしますが、どうしても入院が必要となった時に、城北病院は電話1本で入院を受けてくれるのでとても助かります。

入院となった場合は、連携先がほしい情報を提供できる様に意識しなくてはいけないと思います。医師や看護師、多職種に家での生活状況が思い描くよう情報提供ができれば良いと考えています。

超高齢社会を迎えて援助の対象が“キュア”で治る病気から“ケア”で対応すべきものに変化しています。保健・医療・福祉の包括ケアが求められています。利用者（患者）さんは、「家で死にたいのではなく、死ぬまで家で生きたい」ので、病院はこれからも非侵襲的で利用者（患者）さんに負担がかからないような治療技術を進化させていき、できるだけ短時間治療し、早く退院できるように連携することが必要だと考えます。



在宅回診  
(一番左が大川先生)

### 【連携の中で共に利用者（患者）さんの望む場所に～】

**インタビュー** 連携を行って行く上で、今以上に連携が強化できるようにするにはどうしたらよいですか。

**大川医師** それはこちら、在宅側の問題でもあると考えます。利用者（患者）さんの在宅での生活がイメージできるように、寝ているところ、立ったり歩いているところの5分間の動画が作れたら良いと考えています。入院前の生活のイメージができないと入院して、退院を目指すに当たり何をゴールにしてよいかかわからないと思います。こちらがうまく、如何に情報提供できるかということです。動画作成については、来年度の目標にしたいと思います。動画を在宅回診に使用できたら良いですね。連携を強化していくには、病院側は低侵襲的に検査や治療を行っていただき、急性期治療を終えたら、在宅仕様にして早く帰してほしいと思います。また、在宅といってもキュアの技術はとても重要で、その技術の進歩を病院から学びたいと思っています。



地域包括ケア病棟の回診

### 【これからも共にあゆむ～】

**インタビュー** 今後どのように発展し活動をしていきたいと思いませんか。

**大川医師** 城北の関連施設では、国が行っている地域包括ケアを意図とする事業は、ほとんどもっていると思います。これは15年以上前から実践しています。べんりくんなどのNPO法人もあります。しかし、利用者（患者）さんを支えきれていない部分も垣間見えます。おひとり様、高齢者仕様のために介護保険を充実させていく必要がありますが、医療介護確保推進法では逆に給付制限が目立ち、これではだめだと思えます。

今後は関連事業としてサービス付高齢者賃貸住宅を検討しているので、この事業をバネにして在宅でできることのレベルをあげていきたいと思えます。「本人本位のケア付き地域づくり」の概念で様々な工夫していく必要があります。認知症患者についても“認知症カフェ”や民家を借りて集える場を提供する、ペットの利用も可能で誰でも入りやすいカフェ、夢のあるものを造れたら良いと思えます。現実には厳しいですが、夢をもって活動したいですね。